

付論 浄光寺蓮華院跡の建物について

熊本大学教授 北野 隆

当時、現在の蓮華院誕生寺跡には、『肥後国誌』によると、浄光寺・蓮華院・妙性寺が存在していたと記される。これらの寺院域については、現在検討中であるが、今回、蓮華院誕生寺の南西部から建物跡が発掘された。

この建物跡は、棟が東西方向で、梁間方向が3間（柱間）、桁行方向が6間（柱間）である。柱は、すべて掘立柱からなり、梁間方向は、柱間隔は東部分で2メートル（西部分は、若干乱れているが、土間とみれば差支えない）、桁行方向は、西から2間の柱間隔が2メートル、次の2間が2.5メートル、そして東から2間が2メートルであった。また、西側2間内部には、建物内に掘立柱跡がみられず東側4間内部には、主要な掘立柱跡と同時に小さな掘立柱跡が散在している。（第27図）

この建物は、掘立柱の柱間々隔や建物内に散在する柱跡から察して、西側2間部、中の2間部、東側の2間部に分かれるように思われる。特に西側2間部は土間で、中の2間部、東側の2間部は床（ゆか）部であり、主要な柱跡の他に小さな柱跡が散在するのは、床部に設けられた束跡かと思われる。

当時の浄光寺・蓮華院・妙性寺にどのような建物があったかについては、今後の調査によるが、主要な建物としては、本堂、客殿、庫裡・僧坊などで、付属的なものとして、乙護王堂、物置などが考えられよう。

当時の九州における「西大寺末寺帳」にみる他寺、八代玉泉寺を参考に挙げる。玉泉寺も中世の伽藍配置は、すでに消滅し、江戸時代の文政年間の絵図が残されている。主要な建築は、本堂、庫裡、鐘楼堂、鎮守堂であった。この内、本堂は3間×3間、庫裡が3間×7間半、鐘楼堂が9尺四方、鎮守堂が1間四方であった。さらに、庫裡の内部は、台所、玄関、客殿、座敷からなっていた。

今回発掘された建物跡は3間×6間で、西側2間部は、土間であったことが予想され、庫裡の建物が考えられる。また、内部的には西側が土間、中の2間部、東側の2間部が床部であり、それぞれ柱間々隔も異なっていたから、機能的にも異っていたものと思われる。

先の玉泉寺の庫裡から察すると、西側の2間部が台所で土間、中の2間部が板敷で居間兼客殿、東側の2間部が寝室兼座敷に相当するように思われる。

当時、この建物跡は、庫裡、客殿、僧坊を兼ねた機能をもっていたと考える方が適當のように思われる。

参考文献資料一覧

- ①肥後国玉名郡村誌 圭室諦成 田辺哲夫 玉名民報社 S 33. 2
- ②肥後國史（上） 後藤是山編 P 663～P 664 (株)青潮社 S 59. 5
- ③「熊本県の歴史」 文画堂
- ④岱明町地方史 門岡 久 岱明町役場 S 44. 9
- ⑤寿福寺跡 玉名市文化財調査報告 第 4 集 熊本県玉名市教育委員会 1980
- ⑥浄光寺蓮華院跡出土品 玉名市文化財調査報告 第 5 集 玉名市教育委員会 1980
- ⑦蓮華寺跡、相良頼景館跡 熊本県文化財調査報告 第22集 熊本県教育委員会 S 52.
- ⑧境古墳群・境遺跡 熊本県文化財調査報告 第42集 熊本県教育委員会 1980
- ⑨宇土城跡（西岡台） 宇土市埋蔵文化財調査報告書第 1 集 熊本県宇土市教育委員会 1977
- ⑩方保田東原遺跡 山鹿市立博物館調査報告書 第 3 集 山鹿市教育委員会 1984
- ⑪筑後国府跡 久留米市文化財調査報告書 第46集 久留米市教育委員会 1986
- ⑫西屋敷遺跡Ⅱ 久留米市文化財調査報告書 第40集 久留米市教育委員会 1984
- ⑬伊川遺跡 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第38集
(財法) 北九州市教育文化事業団 1985
- ⑭薩摩国分寺跡 川内市教育委員会 1985